

兵庫へリテージマネージャーの取り組み

2010.10.29

- ・ 兵庫へリテージマネージャーとは
- ・ 篠山重要伝統的建造物群保存地区補助事業
- ・ 茅葺3棟の農家民泊
- ・ 文化庁委嘱事業 竹灯籠が灯る重伝建地区篠山
- ・ その他



兵庫へリテージマネージャー

才本謙二

兵庫ヘリテージマネージャーとは

兵庫県では、(社)兵庫県建築士会と連携して建築士を対象に「兵庫県ヘリテージマネージャー養成講習会」を開講し、歴史的建造物の修理技術や活用手法、歴史文化遺産を活かしたまちづくり等に関する講習を行い、もって、地域の歴史的建造物の保全等を期待する「ヘリテージマネージャー」登録制度を発足した。只今県下で約250名が登録している。



再生のプロを養成している。

第8回兵庫ヘリテージマネージャー大会

2010.09.25

兵庫県下はいうまでもなく、遠く神奈川県・奈良県・京都市来訪。

テーマ 「アートと食とヘリテージ」

篠山に縁があって、篠山をフィールドに各分野で活躍されている方々をゲストとしてシンポジウム。多くの参加者がそれぞれの立場で「篠山」・「文化」を語り合う大会となった。



第8回兵庫へリテージマナー大会

2010.09.25

オリエンテーション・まちあるき



篠山城大書院にて
参加90名



マップ片手に市内3時間まちあるき
参加90名

第8回兵庫ヘリテージマネージャー大会

2010.09.25

シンポジウム・パネルディスカッション



喜多俊之氏による基調講演
参加200名



パネルディスカッション

喜多氏・フレンチシェフ高柳氏・造形作家水上氏
参加200名

第8回兵庫ヘリテージマナー大会

2010.09.25

意見交換会(丹波の食を楽しむ会)



メンバー中心に、パネラーも参加
参加200名

丹波篠山古民家再生プロジェクト

市民ファンドとボランティアによる



技術支援 限界耐力計算講習会

篠山重要伝統的建造物群保存地区補助事業

平成16年12月10日

大書院
篠山城内最大の建造物であった大書院は昭和19年(1944)に焼失しましたが、平成12年(2000)に学術調査にもとづき正確に復元されました。

二の丸御殿跡遺構
二の丸御殿跡は江戸時代の絵図や発掘調査の結果をもとに、御殿跡の範囲などの再取りを平面表示しています。

小林家長屋門(市指定文化財)
文化年間(1804-18)に建築されたと伝わる入母屋造茅葺の長屋門。篠山城西外堀に面し、当時の面影を今に伝える貴重な建造物です。内部は非公開。

安間家史料館(市指定文化財)
茅葺で平入、曲屋形式(平面がH字型)の主屋と瓦葺土蔵が残る土主住宅です。内部には江戸時代の文書や食器を始め武具などを展示公開しています。

西坂家住宅(市指定文化財)
全つて普請屋を営んでいた家で、江戸期の豪商家の姿を今に伝える貴重な建造物です。内部は非公開。

川端家住宅(市指定文化財)
明治・大正期の町家で、約13坪の敷地に平入主屋と土蔵1棟、離れ、納屋などが当時の姿のまま残る貴重な建造物です。内部は非公開。

伝統的建造物の意匠 ～匠の技を今に伝える町並み～

茅葺屋根	茅葺種門	平瓦葺屋根	百舟渡瓦	鬼瓦と鳥雲	灰中塗壁	白漆喰塗壁	黒漆喰塗壁	船塀と廻廊	即建	瓦格子	大戸	欄格子
葺千木	土壁	枕元葺屋根	障子瓦	欄邊瓦	目目板張壁	下見板張壁	鼻鼠壁	曲格子窓	鼠籠窓	代表的な豪商家	代表的な平入町家	

面積 約40.2ヘクタール
(東西約1500m、南北約600m)

保存の措置を講じる物件
建築物 174件

工作物 51件
環境物件 68件

篠山市篠山伝統的建造物群保存地区は**史跡篠山城跡**を中心に、**武家地**と**町屋**の3地区から構成され、住民の町並みに対する意識の高さもあり、江戸時代以降の町並み・町割りが一体的に残る。天下普請による篠山城跡を核とした近世初頭の城下町。

- ①篠山城跡を核とし、武家屋敷や町人地の町割を残すなど、近世の城下町の基本的構造を良く残す。
- ②近世から近代にかけて建てられた武家屋敷、町家及び寺院など、城下町の要素を全体として残し、その**歴史的風致**を今日に良く伝える。

篠山重要伝統的建造物群保存地区補助事業



江戸期 武家屋敷



H16.12.10選定
年間5～6棟のペースで修理修景されている。

文化的価値の再認識・再発見・・・まちの魅力

5年が過ぎて住民意識に変化

篠山重要伝統的建造物群保存地区補助事業

江戸期 妻入り商家

平成20年度修理



丹波篠山「江戸久 本店」
「手づくりコロッケ」は行列ができる人気

閉店時には、細格子・荒格子と
耐震壁が見える

篠山重要伝統的建造物群保存地区補助事業

江戸(天保年間) 妻入り商家

平成21年度修理



活用検討中



みやげ物店

集落丸山の取り組み 茅葺3棟の農家民泊

丸山集落には12戸の民家があるが、現在は、このうち7戸が空き家で、居住者は5世帯19人である。

平成20年度には、地区住民、転出者、市職員等が参画したワークショップを計7回開催し、まちづくりの方向性、修景整備計画を策定した。また、これに一般市民を加えたまちづくり学習会を計5回開催し、古民家再生、農家民泊、獣害対策等について学習した。

これと並行して、有識者によるフォーラムを開催、まちづくりのコンセプトを検討した。その結果、日本人の心の原点というべき「集落の暮らし」を体験する空間とする、古民家等の再生により滞在施設を整備する、農業体験、アート、日本文化体験等のイベントを持続的に展開する、との方向性を確認した。

こうした活動から得られたコンセプトは以下のとおりである。

<コンセプト>

集落とは、この小宇宙に「集」い、「落」ち着くということ、ともに生きる、暮らすということ。定めと覚悟、悠久と豊穡。土間、縁側、たたみ、おくど、町並み、まつり、手工芸、里山、せせらぎ、鳥の声、気配、闇、蛍、星、祈り、土地の神様、家族……日本人が日本人として暮らさなくなったために失おうとしているものを、今、私たちは見つめ直したい。



竹灯籠が灯る重伝建地区篠山



荒廃した竹林- 整備前の様子



暗いまち通り

重伝建地区内の荒廃した竹林の整備を行い、伐採搬出した竹を用いて町に魅力を与え、新たなコミュニティを創出することを目的とする。

竹灯籠が灯る重伝建地区篠山

竹林整備は、2007.6～



竹林整備-
整備前の
様子



竹林整備
初年度計6回の作業
延べ100名近いボランティアの参加
約300m²の竹林を整備

昨年・今年
年4～5回
参加者 15人程度(1回あたり)



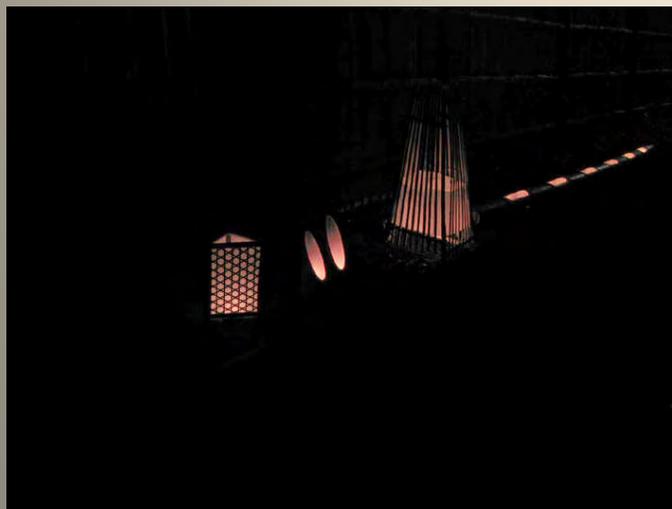
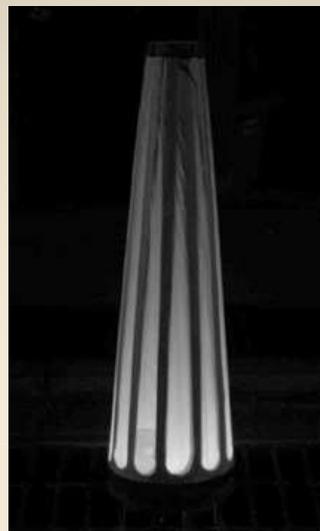
竹灯籠が灯る重伝建地区篠山

竹灯籠づくりは、誰でも簡単に出来る。ユニークな作品が沢山。失敗しても材料は、捨てるほどある。



竹灯籠が灯る重伝建地区篠山

竹灯籠は、約2kmの家並みに沿って、約350基の竹灯籠を点灯した。



竹灯籠が灯る重伝建地区篠山

30名近くの参加、ほとんどが地元の子供たちと父兄。2009.12



私が作った竹トンボ
(子供たちは竹コブターと呼んでいた)と
篠笛

その他 文化活動支援

丹波篠山まちなみアートフェスティバル



河原町25軒の空家に36人の篠山にゆかりのある作家が展示。



その他

登録文化財申請



大正11年6月竣工 旧上久下村営上滝発電所
発電所の直下河川敷から、丹波竜の化石が発見され
建物も再生されることになり、現在は公開施設となっ
ている。